

国語科

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- <取り組みにおける成果と課題>
- 自分の立場や意図を明確にして話す力、重点を落とさないように聞く力について
- ・話型を示すと話すことはできるが、自分で話を組み立てて分かりやすく話すことには課題が残る。今後も相手意識をもって話すことを具体的に指導していく必要がある。
- ・大事なことを落とさずに聞くことや問われていることに正対して答えることに課題が残る。
- 文の構成や指示語の使い方など伝統的な言語文化と国語の特質に関する理解の定着について
- ・図書の時間の読み聞かせや国語辞典・クロームブックを使用して様々な言葉の意味を調べさせたり、触れさせたりすることに取り組んだ。しかし、語彙の定着にはまだ課題がみられ、今後も継続して指導が必要である。
- 条件に合う情報や根拠となる情報を読み取る力を高める。
- ・物語文の読み取りはできているが、説明文からの確に要旨や要点を読み取る力には課題が残った。

国語科における調査結果の分析

(1) 達成率 (△▽は目標値との比較)

		令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能	68.7▽	69.4△
	思考・判断・表現	64.0△	55.4▽
	主体的に学習に取り組む態度	52.9△	39.4▽
第5学年	知識・技能	61.4▽	69.0△
	思考・判断・表現	57.6▽	63.3△
	主体的に学習に取り組む態度	50.2△	46.0△
第6学年	知識・技能	73.6△	64.1▽
	思考・判断・表現	57.8▽	58.5▽
	主体的に学習に取り組む態度	43.8▽	46.9▽

(2) 分析 (観点別)

領域・ 内容 分析 結果 の	○4年生では、領域別でみると、「言語文化に関する事項」は目標値を5ポイント上回っている。一方で、「情報の扱い方に関する事項」は1ポイント、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では4ポイント、「書くこと」については7ポイント下回っている。内容別正答率でみると、物語の内容読み取りの学習が、目標値を1ポイント上回っている。しかし、「調べたことをもとに文章を書く」は4ポイント、「文章を書く」は8ポイント、「漢字の読み書き」目標値を下回る結果となった。 ○5年生では、領域別で見ると、「我が国の言語文化に関する事項」のみ上回っている。内容別正答率では、「漢字を読む」は、目標値を上回っている。しかし、「漢字を書く」「文章を書く」の項目は、目標値を下回っている。特に、「文章を書く」という項目では約7ポイント目標値を下回る結果となった。 ○6年生では、領域別で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」は目標値を上回っている。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」「読むこと」の項目では、4ポイントから6ポイント目標値を下回る結果となった。内容別正答率は、「漢字を読む・書く」「言葉の学習」は目標値を上回ったものの、「物語の内容を読み取る」の項目では27ポイント、「文章を書く」の項目では16ポイント目標値を下回る結果となった。必要な情報を読み取ったり、条件に応じて文章を書いたりすることを中心に復習する必要がある。
----------------------------	---

観 点 別 結 果 の 分 析	○知識・技能 ・4年生の漢字の部首や読み書き、ローマ字に関する問題は、目標値をそれぞれ10ポイント下回っている。 ・5年生は、目標値を下回っている。「漢字の読み」は目標値を上回っている。 ・6年生は、「漢字を読む」「漢字を書く」「言葉の学習」は目標値を上回っているが、「文章を書く」の「2段落構成で書く」については目標値を10ポイント下回っている。 ○思考・判断・表現 ・4年生では、文の長さや段落、自分の考えを書き出す問題において、目標値を10ポイント以上下回っている。ねらいや条件に応じて文章を書くことを苦手とする傾向が強い。また、説明文の要約の問題については目標値を6ポイント近く下回っている。叙述を基に読み解いたり、文章を要約したりすることができていない児童が多い。 ・5年生は、目標値を下回っている。「登場人物の気持ちを捉える」は目標値を上回っている。 ・6年生では、「話し合いの内容を聞き取る」は目標を上回っているが、「物語の内容を読み取る」では登場人物の心情を読み取ることが27ポイントも下回っていることから、文章全体の構成を捉えて理解することが苦手な部分がある。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・4年生において、特に自分の考えを明らかにして記述する問題においては記述問題への苦手意識から、目標値を10ポイント以上下回っている。粘り強く問題の解答に取り組んだ児童が少なかった。 ・5年生において、全体的に目標値を下回った。継続的に書く力を指導する必要がある。 ・6年生において、「文章を書く」は10ポイント近く下回り、半数以上の児童が無回答となっている。自分の考えに自信がなかったり、どう書いていいの分からなかったりする児童が多い実態からこのような結果になったと考えられる。 ・各学年において、項目の観点別正答率は目標値を上回っている学年もあるが、「書くこと」の項目において目標値を下回っており、苦手意識をもっている児童が多かった。目的に応じて自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりする児童が少ない。また、解答を文章で書く問題への取り組みにおいて、最後まで書こうと努力した児童が少なかった。
--	---

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 自分の立場や意図を明確にして話す力、重点をおとさないように聞く力を高める。 ・相手意識をもち、自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う機会を増やす。状況に応じて話型を確認したり、聞き取ったことを文章に書き表したりする場を設定する。 ・聞く力・話す力を高めるための活動を日常的に取り入れる。 2. 文の構成や指示語の使い方など伝統的な言語文化と国語の特質に関する理解の定着を図る。 ・週に最低3日は朝読書の時間を確保し、授業外の時間にも文章に触れる時間を意図的に増やす。また、引き続き、すぐに辞書を手に取れるような環境を整える。漢字の学習などでは、意味を覚えることに併せて、文の中で正しい使い方を身に付けられるようにする。 3. 条件に合う情報や根拠となる情報を読み取る力を高める。 ・事実と感想、意見など、文の役割を意識して読むことを徹底し、段落相互の関係や全体の構成、文章の要点を捉える活動につなげていく。 ・文章の読み取りだけでなく、グラフや資料から情報を読み取る機会を増やすなど、総合的な学力を伸ばせるようにする。
--

国語科の授業改善策

・語彙を豊かにし、「話す」「書く」につながる言葉の力を付けるために

低学年	・授業の導入時に言葉集めなどを行い、語彙力を高める活動を取り入れる。 ・話型や言葉の掲示を活かした授業を展開したり、日常的に敬体で話すことを意識させたりして、言語感覚を磨き、語彙を増やすことを目指す。 ・伝えたい事柄について、順序を考えて伝えられるように意識付ける。 ・短い文で句読点や会話文、また助詞を確認しながら文章を書く。「はじめ・中・おわり」の文章構成を意識して文章を書いたり、話したりする。
中学年	・言葉の意味を辞書で引かせたり、読書に親しませたりする機会を増やし、語彙を増やすことを目指す。 ・話の中心が明確になるよう構成を考えさせ、互いの意見を伝え合う活動を取り入れる。 ・文章のまとまりに気を付けて適切に段落を使って文章を書き、書いた後に読み返して間違いに自分で気付くよう意識させる。
高学年	・多様な読書活動や、国語辞典からの適切な言葉の意味の選択など、日常的に語彙を増やす言語活動に取り組む。 ・相手の話を正確に聞き取り、自分の立場や意図をはっきりさせて話し合う活動を取り入れていく。 ・物語や説明文の内容について、大切な言葉を抜き出す活動を行い、要点を正しく要約できるようにする。

・相手や目的を意識して、全体の構成を考えた文章を書く力を付けるために

低学年	・日記や作文、視写などの指導を日常的・継続的にし、「書くこと」に対する抵抗感を減らし、意欲をもたせる。 ・事実との違いを理解し、思ったこと・理由など、気持ちを表現する文を書けるようにさせる。
中学年	・内容のまとまりで段落を作り、文章の構成を考えて書く活動を取り入れる。段落相互の関係に注意して文を書けるようにする。 ・目的や、書こうとすることの中心を明確にし、事例や根拠を挙げて伝えたいことを明確に書く活動に多く取り組む。
高学年	・自分の考えや主張が適切に伝わるように、根拠を明確にして文を書く機会を増やす。また、まとめや感想を書く際に、段落の構成を考えながら取り組むことを習慣付ける。 ・自分の立場や意図を明確にして、文章全体の構成や文の効果を考え、資料や図表、グラフなどを活用して、事実と感想を区別して書けるようにさせる。

・文学的文章や説明的文章を正確に読み取る力を付けるために

低学年	・文学的文章では、登場人物の動きに着目し、挿絵を参考にして、想像を広げながら場面の様子を読み取る機会を設ける。 ・説明的文章では、言語的な理解に加えて、写真・絵などの資料と合わせて必要な情報を読み取る機会を増やし、理解が深まるように指導を重ねる。
中学年	・文学的文章では、出来事の時間的な経過や順序を考えて、登場人物の相互の関係や心情、場面の描写を捉えられるような言語活動をする。 ・説明的文章では、資料や記録と合わせて読み取りを行わせる。また、指示語が示す言葉や、段落相互の関係や全体の構成、事実と筆者の意見や主張の関係を考えて読み取りを行わせる。
高学年	・文学的文章では、登場人物の性格や心情の変化、場面の情景や移り変わりの描写などの視点を明確にし、丁寧に読み取らせる。 ・説明的文章では、事実と感想・意見などの関係に着目して段落の要点や全体の要旨をまとめる機会を設けたり、グラフや表と並行して読み取りをさせたりして、総合的な力を高めさせる。また、筆者の主張に対して、資料や記録など根拠を基にした自分の考えを述べる活動を取り入れ、意見を明確に述べるようにさせる。

算数科

算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<取り組みにおける成果と課題>

○ 習熟度別指導によって、児童の実態に合わせた指導を行うことができたため、効果的であった。

○ 学年で指導法を共通する単元を作り、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。複数学年で共通理解することで、学年が上がっても昨年度の学習を生かせるようにし、四則計算の定着に効果的であった。

○ 具体物の操作を取り入れたことで意欲的に学習に取り組み、知識・理解が深まった。

○ 根拠をもって考え方を説明することについて苦手とする児童が多い。

算数科における調査結果の分析

(1) 達成率 (△▽は目標値との比較)

		令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能	76.0▽	79.6△
	思考・判断・表現	60.9△	55.4▽
	主体的に学習に取り組む態度	73.4▽	76.7△
第5学年	知識・技能	71.4△	68.5△
	思考・判断・表現	44.7▽	60.0△
	主体的に学習に取り組む態度	48.8▽	54.6△
第6学年	知識・技能	70.3△	65.2▽
	思考・判断・表現	50.0＝	48.6△
	主体的に学習に取り組む態度	42.0▽	43.3▽

(2) 分析 (観点別)

領域・ 内容 結果 の 分 析	○ 4年生は、領域別正答率をみると、どの領域も目標値を上回っている。特に「データの活用」領域は7ポイント以上上回っている。内容別にみると、「大きい数・小数・分数」、「かけ算」、「□を使った式」、「表とぼうグラフ」が目標値を上回っている。一方、「円と球、三角形」が目標値を下回っている。特に「円・二等辺三角形」は目標値から9ポイント下回っている。円の半径や作図について課題が見られた。 ○ 5年生は、領域別正答率をみると、どの領域においても目標値を上回っている。校内平均正答率も目標値を上回った。しかし「わり算のきまり」や「いろいろな形」など、数量関係や図形における性質に関する問題の正答率は全体的に低い。学習した性質と照らし合わせて正誤判定をしたり、用語を活用して考えを表したりすること、また図形を作図したり展開・組み立てを念頭操作で行ったりすることに今後の課題がある。 ○ 6年生は、領域別正答率をみると、「数と計算」「図形」「変化と関係」は上回ったが、「データの活用」は下回った。「データの活用」については、4.4ポイント下回った。基的・基本的な考えは身につけているが、活用するとなると、基礎的・基本的な考えと結びつかないことが課題であることがわかる。
--------------------------------	--

○「知識・技能」

- ・4年生は、大体目標値を上回っている。しかし、わり算のあまりの切り上げの問題、あまりの処理の問題は目標値より10ポイント低くなっている。
- ・5年生は、目標値を2.2ポイント上回った。図形の性質に関する問題では目標値よりも4.7ポイント低い結果となった。辺の長さや角の大きさに注目して図形の特徴を捉える力が未定着だと考えられる。
- ・6年生は、目標値を2.7ポイント上回った。しかし、「割合」では、4.2ポイント、「円グラフや帯グラフ、平均」では4.4ポイント下回った。表やグラフから数値を読み取り、計算に活用することが課題であると考えられる。
- ・学年によって苦手な分野が分かれた。4年生は分数の構成、あまりのあるわり算であまりの処理の仕方、二等辺三角形の作図。5年生は平行四辺形の作図、グラフの目盛りの読み取り。6年生は小数の大きさ・円グラフや帯グラフの乗法の読み取りが低くなっている。学年にそれぞれの特徴を意識して授業展開を考える必要がある。

○「思考・判断・表現」

- ・4年生は、わり算、円と球・三角形は目標値より低くなっている。
- ・5年生は知識・技能が目標値に対して2.2ポイント上回っているのに対し、思考・判断・表現が0.9ポイント、意欲・関心・態度のポイントが2.2ポイント低い値にある。①既習事項を発展させて考える問題への対応力の低さや、②それを解いてみようという算数的な意欲が低いために、思考力を問われる問題の正答率が下がったと考えられる。
- ・6年生は、0.5ポイント下回った。情報を正しく読み取り説明することに課題が見られる。
- ・4, 5年生は思考の問題ではおおよその問題が目標値を上回っている。考え意見を交流する授業を今後も継続していく。6年生は、計算方法だけでなくその立式の意味を図などを用いて考えることを中心に、じっくり問題に取り組む必要がある。

○「主体的に学習に取り組む態度」

- ・4年生は目標値を上回っている。
- ・5年生は、目標値を2.3ポイント下回った。既習事項を関連付けて考えたり、複数の計算を経て解く問題では、解答に向かう意欲が下がる児童が複数見られた。
- ・6年生は、目標値を3.8ポイント下回った。問題を解ききる前に解答をあきらめてしまう姿も見られた。
- ・学年が上がるにつれてポイントが下がっている。学年が上がるにつれて学習内容が難しくなってくるため、前学年の内容をと比べて学習を重ねることが大切である。前年度の復習を絡めながら新しい学習でのポイントを具体物や実生活での事象と絡めながら取り組むと、繋がりが分かり意欲的にできるのではないかな。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 「数量や図形についての知識・技能」

- ・4年生は、「数と計算」領域において確実に四則計算ができるよう繰り返し取り組む必要がある。□を使った計算は、4年生の倍の学習でも扱うので、意識的に取り上げて授業を進める。
- ・5年生は、「図形」領域において分度器の読み方の正答率が低かったので、器具の使い方を復習しながら正確に作図できるようにしていく。
- ・6年生は、どの領域においても、図や式を用いてどうして答えが導き出されるのかを表す機会を多く取り入れることにより、答えの出し方だけでなく考え方から理解できるように授業を構成していく。

2 「数学的な思考・判断・表現」

- ・各学年ともに、図や式などを用いて自分の考えを表す手段を広く示し、いろいろな方法で自分の考えを根拠と共に説明する活動を積極的に取り入れる。

3 「主体的に学習に取り組む態度」

- ・算数的活動を入れることで、日常生活と算数との関わりにも目を向けさせ、関心を高める。
- ・どの単元でも、今まで学習したことと繋がりがああることを感じるようにして、少しでも抵抗感を少なくする。

算数科の授業改善策

・数量や図形についての知識・技能

低学年	・具体物の操作を行い、問題場面の内容をしっかり捉えさせる。問題文を絵や図で表すことによって理解を深め、式と結び付けられるようにする。 ・用語やその意味を理解していない児童も多く、繰り返し復習する。 ・「長さ」や「水のかさ」などの量感を育てるための実生活での量感をもたせる活動を多く取り入れる。 ・繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の解き方、かけ算九九の暗唱を正確にできるよう繰り返し取り組む。
中学年	・問題文の題意を正確に読み取れるように、数量関係を表す図を基に考えさせる。 ・正しい用語を用いて説明できるように、用語を使う機会を多くする。また用語の復習を定期的に行う。 ・かけ算九九の暗唱の徹底 ・作図や図形の構成の活動を通して、図形の性質を確かめられる力を付ける。 ・四則計算の筆算においては、①位をそろえて書く。②くり上がり（下がり）の印を書いて行う。③児童のつまずきに応じて下学年の内容に立ち戻った指導を行う。以上3点を徹底して指導する。
高学年	・「数と計算」領域においては、①下学年の内容に立ち返って計算の仕方を確認する。②計算プリントやICTを活用し、児童のつまずきに応じた課題に取り組ませる。③授業展開を工夫し、5分程度の計算練習の時間を設ける。以上3点に重点を置いて計算技能の向上を図る。 ・「図形」領域の学習においては、拡大図や模型を使って辺の長さや角の大きさ、辺や面の関係を観察したり、構成したりすることで理解を図る。 ・「変化と関係」領域においては、どの数量が何を表しているのかを考えさせながら取り組むことで、意味を理解し知識理解につなげていくようにする。 ・「データの活用」領域においては、グラフの表題・横軸や縦軸が表すもの・1目盛あたりの値など、順を追って資料を読み解くように指導することで資料の値を正しく読み取れるようにする。

・数学的な思考・判断・表現

低学年	・具体物の操作を通して、式への理解を深めさせる。また、式の意味を説明する活動を意図的に設ける。 ・問いかけ型の発問を増やし、「なぜ」、「どうして」と思考する習慣を付けさせる。
中学年	・絵や図を用い、立式の根拠を分かりやすく説明できるようにする。 ・正しい用語を用いて説明できるようにする。説明する機会を意図的・計画的に設ける。
高学年	・問題場面を式だけでなく図などに表すことで数量関係をイメージしながら立式できるようにする。特に数直線から立式し、求める値を複数の選択肢の中から根拠をもって正誤を判断する活動を取り入れることで、数量関係や図形の構成要素、データの特徴に着目して考える力を養う。 ・友達の発表や説明を聞き、どう考えたのか、何を根拠に考えたのかを、式や図から読み取らせる活動を取り入れる。 ・考えを交流する際には、①考えの共通点②その方法の良さについて考えさせることで算数的な見方・考え方を養う。

・主体的に学習に取り組む態度

低学年	・興味がもてるような教材の工夫をし、具体物の操作をしたり体験的活動を取り入れたりする。
中学年	・既習事項を振り返りながら、新しい学習との違いを明確にする。 ・実物の操作をしたり、ICT 機器を用いて視覚的に示したりすることで学習に対する関心をもたせ、知識や技能の習得につなげていく。
高学年	・既習事項を振り返りながら、新しい学習との違いを明確にする。 ・実物の操作をしたり、ICT 機器を用いて視覚的に示したりすることで学習に対する関心をもたせ、学習したことをノートにまとめたり、学習感想を書かせ、内容の習熟を図る。

社会

社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<取り組みにおける成果と課題>

・地図帳・地球儀を日常的に活用したり、資料を精選して読み取らせたり、具体物を提示して授業を展開するなどの課題設定の工夫をしてきたが、単元の終末に「今の自分にできること」等、社会参画を意識した考えをもたせるまでには至らなかった。

・資料の読み取り方については、資料を精選したり視点を示したりしてきたが、深い読み取りにまでは至らず、複数の資料を関連付けて読み取る・読み取った内容を表現する点に課題が残る。

社会科における調査結果の分析

(1) 達成率 (△▽は目標値との比較)

		令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能	61.0▽	62.3▽
	思考・判断・表現	67.9△	60.6△
	主体的に学習に取り組む態度	55.9▽	62.8▽
第5学年	知識・技能	57.2▽	59.4▽
	思考・判断・表現	57.1▽	49.3▽
	主体的に学習に取り組む態度	53.6▽	42.9▽
第6学年	知識・技能	60.7▽	52.6▽
	思考・判断・表現	55.9△	55.4▽
	主体的に学習に取り組む態度	57.6▽	50.7▽

(2) 分析 (観点別)

領域・内容結果の分析	○4年生では、目標値を3ポイント下回っている。内容別に見ると、特に「地域や市の様子」について目標値から10ポイント下回り、「安全を守る働き」、「市の様子の移り変わり」については、目標値を4ポイント回っているが、「生産や販売」については目標値に届いている。内容の理解に偏りがあるため、理解が不十分な内容を中心に復習する必要がある。 ○5年生では、どの領域においても目標値を下回っている。特に「伝統や文化・先人の働き」、「特色ある地域の様子」については、目標値を10ポイント下回っている。「特色ある地域の様子」については7ポイント下回っている。ただし、「都道府県の様子」については目標値に届いておりことから、内容の理解に偏りがあり、苦手な内容を中心に復習する必要がある。 ○6年生では、ほとんどの領域が目標を5ポイント以上下回っている。「国土の自然などの様子」「産業と情報との関わり」について7ポイント以上目標値を大きく下回り、「農業や水産業」「工業生産」については5ポイント下回っている。しかし、「国土の自然環境と国民生活」については目標値とほぼ変わらないので、工業・産業の内容について復習をしていく必要がある。
------------	---

- 「知識・技能」
 - ・ 4年生は、「市の様子」の地図を読み取る問題では目標値より10～20ポイントと大きく下回っている。また、「買い物調べ」の資料を読み取る問題では、目標値から10ポイント下回っている。与えられた情報を正しく読み取ることに課題がある。
 - ・ 5年生では、「くらしを支える水」に内容について浄水場やダムのはたらきの理解が10ポイント以上下回っている。また、資料や年表の読み取りも7ポイント下回っていることから、知識の定着を図っていく必要がある。
 - ・ 6年生では、資料の読み取りや抑えるべき用語ができておらず、目標値より10ポイント以上も下回っている。地図の見方やグラフの読み取りに課題がある。
- 「思考・判断・表現」
 - ・ 4年生は、目標値に達成しているものの、区と全国平均は若干下回っている。記述の問題では、販売の工夫について資料を基に書くことができ、全国平均を5ポイント上回っている。マップや写真をもとに判断する選択の問題では5ポイント下回っていることから、資料を読み取る力を身に付けさせる必要がある。
 - ・ 5年生では、複数の資料を基に回答する問題が目標値を下回った。資料の読み取りに力を入れて指導する必要がある。
 - ・ 6年生では、どの内容も目標値とほぼ同等のポイントを習得している。しかし、資料から必要な情報を読み取ったことを記述する問題では10ポイント以上下回っていることから、グラフの見方や問われていることを正確に理解し、適切な言葉を用いて表現する力を高める必要がある。
- 「主体的に学習に取り組む態度」
 - ・ 4年生は、目標値と2ポイント下回っており、区や全国と比べても2ポイント下回っている。買い物調べの結果をグラフにまとめる作図の問題では7ポイント下回っているものの、他の内容については目標値とほぼ同じ値になっていることから、学習したことを生かそうとすることはできている。
 - ・ 5年生では、記述式の問題が10ポイント以上下回っていることから、自分の考えを表現する力を身に付ける必要がある。
 - ・ 6年生では、目標値から2ポイント下回っている。選択問題では完答になっていなくて正答率が下がったことから、多様な見方を身に付ける必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 公民としての資質能力の基礎
 - ・ 単元の終末では、社会的事象を自分事として考えさせる学習場面を設定する。公民的資質を高め、公民としての資質・能力の育成を図る。
- 2 「社会的事象の見方・考え方」を働かせた学びの過程の充実
 - ・ 社会的事象を読み取らせる際には、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係といった具体的な視点を与えて資料に着目させる事で、社会的事象を明確に捉えられるようにする。分かったことを比較・分類したり、総合したりして考えさせ、考えの根拠を明らかにさせる。
- 3 社会との関わり方を意識して学習問題を追及・解決する学習の充実
 - ・ 世界の国々や政治の働きへの関心を高められるような課題や地方公共団体や地域の人々の工夫や努力等に関する指導内容を充実させる。その際に地図帳や地球儀を活用し、関連付けて身に付けられるようにする。

社会科の授業改善策

・ 公民としての資質能力の基礎を養うために

中学年	・ 単元の終末に「今の自分にできること」等、社会参画を意識した考えをもたせる場面を設定し、公民的資質を高められるよう指導する。
高学年	・ 単元の終末に「自分たちにできること」「よりよい社会にしていくなために必要なこと」など、社会参画を意識した考えをもたせる場面を設定し、公民的資質を高められるように指導する。

・「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学べるように

中学年	・ 資料を読み取らせる際には、地図帳を使って位置や空間的な広がりを理解させ、「なぜ」、「どうして」といった発問をすることで社会的事象を関連付けて説明したり、自分から問いをもったりしてまとめられるようにする。 ・ グラフや地図などの資料を見るポイント（表題・単位・方位・地図記号や数値・全体の特徴など）を示し、グラフや地図を読み取る活動を取り入れる。 ・ 調べて分かったことをもとに、根拠を明らかにして自分の考えをもち、考えたことをペアで伝え合うことで自分の考えに自信をもたせる。 ・ 資料から読み取ったことを全体で確認することで、正確に読み取るポイントを押さえるようにする。 ・ 学習した内容について、白地図にまとめる活動を積極的に取り入れ、分かったことや考えたことを表現したり、友達のまとめを見ることでより理解を深めたりできるようにする。 ・ 単元の学習のまとめに新聞やガイドブック作りなどの活動を取り入れ、自分の考えを表現できるようにする。
高学年	・ 資料を読み取らせる際には、地図帳を使って位置や空間的な広がりを理解させ、「なぜ」、「どうして」といった発問をすることで社会的事象を関連付けて説明したり、自分から問いをもったりしてまとめられるようにする。その際には、根拠を明らかにするように指導する。 ・ グラフや地図帳・地球儀を見るポイント（部分の変化・等高線等の関連）を示し、日常的にグラフや地図帳・地球儀を読み取る活動を取り入れる。その際には位置や空間的な広がり、社会的事象の関連付けを意識させる。 ・ 資料の見方を全体で確認し、資料から分かることを出し合うことで、資料が何を示しているのか理解できるようにする。 ・ 複数の資料を比較し、関連付けて読み取る活動を意図的に取り入れる。 ・ 各単元で統計資料、地図資料を取り上げ、読み取った内容から自分が必要とする内容を選択し、自分なりの考えをもたせ、自分の考えを表現できるよう指導する。 ・ 単元の学習のまとめに新聞やポスター、討論形式の話し合い活動等、自分の考えを明確にして表現させる。

・ 社会との関わり方を意識して学習問題を追究・解決できるように

中学年	・ 日常生活との結び付きに重点を置き、日々の生活の中で調べたことや気付いたことなどを基に導入を行ったり、地域の特色を生かした教材設定をしたりする。 ・ 児童の疑問や問いをもとに学習問題・学習課題を作り、見学、調査などの体験的な活動を充実させることで、問題解決的な学習への関心・意欲を高める。
高学年	・ 社会的事象をより身近に捉えられるように、具体物の提示や写真資料・映像資料などを吟味し、非日常的な題材でも自分事に捉えられるように工夫をする。 ・ 自分たちの周りで起きている社会的事象について、朝の会などで話題に取り上げ、社会の学習内容と結び付けることで関心をもたせるようにする。 ・ 児童の疑問や問いをもとに学習問題・学習課題を作り、学習計画を立てさせることで、問題解決的な学習の充実を図る。

理科

理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<取り組みにおける成果と課題>

- 問題の解決方法を考え、意欲的に観察や実験に取り組むことはできている。さらに知識をしっかりと定着させたい。
- 課題解決学習に主体的に取り組む姿が見られたが、結果から考察する力が不十分であるため、考察する力を伸ばしたい。
- 実験や観察の技能、実験結果の記録をまとめる力は個人差が大きい。一人一人がしっかりと実験方法を理解できるようにしていきたい。

理科における調査結果の分析

(1) 達成率 (△▽は目標値との比較)

		令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	知識・技能	61.5▽	62.4▽
	思考・判断・表現	44.7▽	49.2▽
	主体的に学習に取り組む態度	47.8▽	32.0▽
第5学年	知識・技能	61.9▽	65.3△
	思考・判断・表現	47.5▽	59.1△
	主体的に学習に取り組む態度	56.9△	46.9△
第6学年	知識・技能	61.9▽	53.3▽
	思考・判断・表現	47.6▽	43.9▽
	主体的に学習に取り組む態度	54.0▽	45.8▽

(2) 分析 (観点別)

領域・内容結果の分析	○生命・地球
	4年生では、「光の性質」、「植物の育ち方」、「こん虫の育ち方」、「太陽と地面のようす」、「音の性質」、「風やゴムのはたらき」は下回っていた。 5年生では、領域全体で考えると、目標値より6.4ポイント下回っている。「1年間の植物の成長」が目標値を上回っている。その他は全て目標値を下回っている。特に「動物のからだのつくりと運動」は、14.9ポイント下回っているため、知識の定着に課題がある。 6年生では、全ての領域で目標値を下回っている。特に、記述解答の正答率が低い傾向が見られる。
	○物質・エネルギー
	4年生では、全体的に目標率は下回っていた。特に、記述回答の部分の正答率が低かった。 5年生では、領域全体では、5.3ポイント上回っていた。「物の体積と温度」、「水のすがた」、「物のあたたまり方」、「電気のはたらき」が目標値に対して下回っている。 6年生では、全ての領域で目標値を下回っている。人のたんじょうでは、15.2ポイント下回っていることから、知識の定着にも課題が見られることが分かる。

観 点 別 結 果 の 分 析	「知識・技能」 ・ 4年生は、目標値を下回っている。 ・ 5年生は、目標値を下回っている。 ・ 6年生は、目標値を下回っている。 「思考・判断・表現」 ・ 4年生は、目標値を下回っている。 ・ 5年生は、目標値を下回っている。 ・ 6年生は、目標値を下回っている。 「主体的に学習に取り組む態度」 ・ 4年生は、目標値を下回っている。 ・ 5年生は、目標値を上回っており、概ね良好と思われる。 ・ 6年生は、目標値を下回っている。
--------------------------------------	--

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 理科への関心をさらに高める。
 - ・ 日常生活と科学的事象を結び付け、理科に対する興味・関心を高め、問題意識をもてるようにする。教科書に載っていない内容や発展した内容も話題に挙げ、「学習と身近なことが結び付いている。」と実感できる機会を増やす。
- 筋道を立てて考察する科学的思考力を高める。
 - ・ 実験を行う際に仮説を立てたり、実験結果を根拠とするように考察をまとめさせたりする。
 - ・ 実験前に「結果の見通し」をもつことを大切に、学習を進めることで、学びのある実験となるようにする。
- 観察・実験の技能の定着を図る。
 - ・ 観察・実験の時間を十分に確保し、実験器具を操作する活動を繰り返し取り入れることで、技能の定着を図る。
 - ・ デジタル教科書やインターネット教材などを活用し、視覚的に理解しやすくする。
- 知識・理解の定着を図る。
 - ・ ドリルパークや復習プリント等を反復して行うことで知識の定着を図る。

理科の授業改善案

・自然現象への関心・意欲・態度

中学年	・校内の花壇等の自然環境や理科室の掲示物、器具の整備を充実させる。 ・児童の身近な疑問から課題を設定し、学習計画を立てる。児童の発想や思いを大切にしたい実験方法を基に授業を進める。 ・観察や実験を行う際、必要に応じてデジタル教科書の映像資料等を用いるようにする。
高学年	・これまでの生活体験や既習事項に関連付けて、考えられるようにする。 ・植物や生き物を育てる体験を増やしたり、日常生活と科学的現象を結び付けたりしながら、自然現象に対する関心を高める。 ・実験を行うことで、学習に対する関心を高める。

・科学的な思考をさらに伸ばすために科学的な思考・判断・表現

中学年	・事象提示→問題→仮説→実験計画→結果の見通し→実験（観察）→結果→考え（考察）→結論、という学習過程を定着させる。 ・児童自身が既習の学習内容を生かして、仮説を立て、絵やモデル図を生かして考察をしたりできるようにする。 ・視点を明確にして結論や学習感想を書かせ、深い学びにつなげる。
高学年	・事象提示→問題→仮説→実験計画→結果の見通し→実験（観察）→結果→考察→結論の学習過程を定着させる。 ・結果の見通しを立てて、実験に臨むことで学びを深める。 ・課題解決のための実験、観察の準備や方法から、結果、考察、結論までを順を追って記録できるようなノート指導を行う。 ・生活経験や既習事項を基に、根拠のある予想を立てるように指導を行う。

・自然現象についての知識・理解

中学年	・身近にあるものを活用して、実験・観察をする場を多く設定する。 ・観察の観点や方法を提示して、細かい変化にも目を向けられるようにする。 ・正確な理科用語を使って予想や考察、まとめを行わせ、言葉の使い方に慣れさせる。 ・デジタル教材やインターネットを活用し、視覚的に理解ができるようにする。
高学年	・顕微鏡の使い方や実験の手順など観察や実験の視点を具体的に指示し、記録の取り方のポイントを具体的に示す。 ・視点を明確にもたせ、自ら見出した方法や手順で多面的な観察・実験を行い、正確に記録したり自分の言葉で表現したりできるようにする。 ・正確な用語を使って予想やまとめができるように、キーワードとなる語を掲示したり、単元ごとに理科用語を繰り返し確認したりすることで、言葉の使い方に慣れさせる。 ・デジタル教材やインターネットなども活用し、視覚的な理解ができるようにする。 ・一人一人が実際に実験を行うことで、実験方法を理解できるように指導する。

体育科

体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<取り組みにおける成果と課題>	
・教師がどのような言葉かけを行えば児童の体力・技能面が向上するかなど、教師の授業力向上を今後も図っていく必要がある。 ・基礎体力を高めるために、準備運動や補助運動での音楽を活用してリズムに乗った動きの工夫を取り入れて、児童の運動に対する意欲を高めることができた。 ・体力向上を目指し活動内容を工夫してきたが、持久力、体力の低下を改善することが課題である。 ・体育学習に主体的に取り組む児童が多いが、体力・技能面に個人差があることが課題である。	

体育科における学習状況の分析

領域・ 内容 分析結果の 分析	○体づくり運動系領域 休み時間等の日常的な運動への取り組みが、個々の児童の体力や技能面での差につながっていると感じる。学習への意欲は高い一方で、運動経験の乏しさから巧みな動きや用具を操作する動きには課題が見られる。 ○器械運動系領域 児童は、運動のコツを進んで伝えたり、アドバイスを聞き入れたりして運動に意欲的に取り組んでいる。また、継続的な取り組みが主運動への成果として表れている。タブレットPC を活用して自己の動きを確認し、友達と共有することで動きの変化に気づくことができています。 ○陸上運動系領域 器械運動領域同様、児童は関わり合って運動に取り組む様子が見られる。運動のポイントやコツを児童が理解して取り組むことで技能面は大きく伸びると感じることから、関わり合いの継続や掲示物、ワークシートなどを今後も活用していく。 ○ゲーム・ボール運動系領域 チームカードを生かした話し合い、チームの課題に応じた練習の場の選択をさせたことで、児童一人一人の主体性や技能の高まり、積極的な関わり合いなどが見られた。しかし、チームでの関わり合いの質に違いが見られ、全体での共有の必要性を感じる。 ○表現運動系領域 心身を解放し、表現運動の楽しさを感じている児童が多いと感じる。音に合わせてリズムにのることで活動量を増やしたい。 ○水泳運動系領域 学年ごとに実施し、水慣れ、検定、泳法指導、水難事故防止学習を実施した。
	○知識・技能 ・技能面での高まりが見られる一方で、運動のポイントは理解しているが、体の使い方としての実感が得られず、知識を技能に結び付けられない児童がいる。 ○思考・判断・表現 ・自己の能力を把握し、めあてを適切に設定することができる。 ・ワークシートには友達の運動のよさに気付いたり、それを自己の運動に生かしたりする姿勢が見られる。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・意欲的に運動に取り組む児童が多い。休み時間も多くの児童が外遊びを行っているが、前向きに取り組めない児童もあり、個々での差の広がり懸念される。 ・運動のコツを伝えたりアドバイスを受け入れたり、互いのよさを受け入れる素地ができています。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 知識・技能
 - ・ 活動量を増やし、運動経験を豊富にさせて運動の楽しさを味わわせる。
- 思考力・表現力・判断力
 - ・ 掲示物やタブレットPC、体育ノートなどを活用し、気が付いたことや話し合ったことを全体で共有し合う時間を確保する。
 - ・ 児童やグループへの教師の適切な問いかけや価値付けをする。
- 主体的に学習に取り組む態度
 - ・ 児童一人一人が達成感や充実感を得られる単元計画や場の設定を工夫する。
 - ・ 意欲を引き出す教師の言葉かけをする。

体育科の授業改善策

■ 知識・技能

低学年	・ 様々な運動経験ができるようにする。友達の良い動きを真似したり動きを工夫したりして、たくさん体を動かせるようにする。 ・ よい動きのポイントを明確にし、児童の運動が活発になるような言葉かけを意識する。 ・ 主運動につながる補助運動を行う。
中学年	・ 単元を通して主運動につながる補助運動を行う。 ・ 児童が励まし合いながら多様な運動経験を積めるようにする。 ・ 自分の体の健康についてこれまでの成長や生活を振り返り、具体的に理解できるようにする。
高学年	・ ワークシートに運動の結果を記録、数値化することで、目標をもって取り組めるようにする。 ・ 多様な技や動きのポイントを明確にし、適切な言葉かけを行う。 ・ 運動につながる補助運動を行い、基礎的な動きを習得させ、技能向上を目指す。 ・ 児童が教え合いながら、多様な運動経験を積めるようにする。 ・ 心と体の健康について科学的に理解し、日常生活に生かせるようにする。

■ 思考・判断・表現

低学年	・ 活動の振り返りを大切にし、取り組みを工夫しようという気持ちをもたせる。 ・ 友達の良い動きを見て、真似したり工夫したりする意識をもたせ、全体で共有しながら授業を展開する。
中学年	・ ワークシートを活用して、自分に適切なめあてをもち運動に取り組ませる。 ・ 友達と関わり合って運動に取り組んでいる児童を称賛し、全体で共有しながら授業を展開する。 ・ 具体例を示して、児童同士の励まし合いや学び合いの中で動きを工夫できるようにする。
高学年	・ ワークシート、チームカード等を活用し、ねらいに合わせてチーム・グループ・個のめあてをもち、取り組みを工夫する活動を重視する。 ・ 具体的で適切なめあてをもち、動きの工夫の仕方についてよい取り組みをしている児童を称賛し、全体で共有しながら授業を展開する。 ・ 具体例を示して、児童同士の教え合いや学び合いの中で自ら動きを工夫できるようにする。

■ 主体的に学習に取り組む態度

低学年	・ 様々な運動遊びを楽しめるように活動内容や授業展開を工夫する。 ・ 運動の特性や学年の実態に合わせてきまりや場の設定を工夫する。 ・ めあてをもつことや関わりを大切にし、仲良く楽しく運動に取り組めるようにする。
中学年	・ 多様な運動を楽しめるように活動内容や授業展開を工夫する。 ・ 運動の特性や学年の実態に合わせて規則や場の設定を工夫する。 ・ グループやチームでめあてをもち、関わりを重視して活動を工夫し技能や体力を高めるようにする。
高学年	・ 多様な運動の楽しさを味わい、技能や体力を高められるように活動内容や授業展開を工夫する。 ・ 運動の特性や学年の実態、活動の系統性を意識してルールや場の設定を工夫する。 ・ グループやチーム、個人でめあてをもち、関わりを重視して活動を工夫し、技能や体力を高めるようにする。

音楽科

音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<取り組みにおける成果と課題> ・歌唱活動では、姿勢や発声に気を付けて歌う児童が多く思いや意図をもって表現する児童が増えている。 ・器楽活動では、技能に個人差があり苦手意識のある児童が何名かいる。曲に合わせて演奏することが苦手な児童でも、個人練習の時間を増やして机間指導をすることで、指使いやタンギングなどを少しずつ理解することができている。 ・鑑賞活動では、音楽を形づくっている要素を掲示して共有したり、曲想の変化について話し合ったりすることで、言葉で表現することのできる児童が増えてきた。	
---	--

音楽科における学習状況の分析

観点別結果の分析	○知識・技能
	・歌唱の学習では、姿勢や体の使い方・発声を意識し、伸び伸びと歌える児童が増えてきている。
	・常時活動を充実させることにより、音程・リズム・和声感が徐々に身に付いてきている。
	○思考・判断・表現
	・表現に関する知識や技能を習得しながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫している。
	・音楽を形づくる要素や旋律の特徴などを聴き取り、音楽の多様性を理解しようとしている。
	○主体的に学習に取り組む態度
	・歌唱の学習では、曲想を豊かに表現したり、気持ちを込めて歌ったりする学習に進んで取り組んでいる様子が見られる。
	・鑑賞では、音楽の諸要素を聴き取り、その要素と関連付けた内容を記述したり発表したりしている。

音楽科における授業改善のポイント

○知識・技能	
→導入時に前時の学習を振り返る、器楽の学習では既習事項の指使いを確認してから学習に入るなど、児童が安心して活動に取り組むことができるようにする。	
→常時活動により、音楽に必要な力を段階的に身に付ける。	
○思考・判断・表現	
→曲を聴いて感じたことを発表させる機会を多く設ける。曲の特徴にふさわしい表現を工夫しやすいよう、曲の盛り上がりや聴きどころがどこかを考えさせ、近くの児童と意見交流をしながらグループ練習やパート練習をする時間を多くもつ。	
○主体的に学習に取り組む態度	
→導入時に児童の声や技能にあった今月の歌を歌い、歌声を響かせて歌う活動に興味・関心をもてるようにする。また、歌声や楽器などの響きの関わりに興味・関心をもち、旋律の特徴を生かした表現を工夫することができるようにする。楽曲分析を行い、音楽を形づくっている要素や作者に対する理解を深められるような場を設定する。	

○ 知識・技能

低学年	・歌唱では、範唱や友達の歌声・伴奏をよく聴いて、発声に気を付けて声を合わせて歌うようにする。 ・器楽では、鍵盤ハーモニカの運指や息の使い方に気を付け、拍の流れにのって演奏できるようにする。
中学年	・歌唱では、呼吸や発音に気を付けて無理のない自然な声で歌うとともに、自分の歌声を友達の歌声に調和させて歌うようにする。 ・器楽では簡単に組み入れる曲で、リコーダーやキーボードの運指やタンギングを確実に身に付けさせる。また、4年生では使用楽器の幅も広げ、リコーダーやキーボードの他に、小物打楽器などのさまざまな楽器の基本的な奏法も身に付けられるよう合奏活動を充実させる。
高学年	・歌唱では、曲想にふさわしい歌声を目指し、呼吸や発音の仕方を工夫して豊かな響きのある声で歌えるような活動を充実させる。 ・器楽では、それぞれの役割を意識した音楽表現ができるようにパートの特徴を考えさせ、全体で確認をして演奏する。

○ 思考力・表現力・判断力

低学年	・歌詞の中に登場する人物や動物になりきって歌ったり、感じ取ったことや想像したことを言葉や体で表現したり友達と伝え合ったりする活動を多く取り入れる。
中学年	・歌詞の内容や楽曲の特徴から曲への思いを膨らませ、フレーズや強弱を工夫して歌ったり演奏したりする活動を多く取り入れる。また、互いの表現を聴き合ってそのよさを発見したり、体の動きを伴った表現活動を取り入れたりするなど様々な活動を工夫し、感じ取る体験を積み重ねる。
高学年	・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて一人一人が思いや意図をもてるよう工夫する。また、全体交流の場では拡大楽譜やスクールタクトなどのICTを活用し、考えを表現できる場をつくり、交流しながら学習を深めていけるようにする。

○ 主体的に学習に取り組む態度

低学年	・一人一人が意欲的に歌ったり楽器を演奏したり、楽しんで聴いたりすることができる魅力ある教材を選択する。また、楽曲の気分に合った表現を声や音だけでなく体全体で表現するような活動を取り入れる。 ・親しみやすい楽曲を選択し、曲の気分を感じ取って、身体表現を交えながら楽しんで聴く活動の充実を図る。
中学年	・音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取りやすい魅力のある教材を選択する。また、強弱や速度などの曲の特徴について、スクールタクトなどのICTを活用し全体で意見交流する時間を多く設け、クラス全体で協力して音楽表現することができるようにする。
高学年	・児童の実態に応じた魅力ある教材を選択する。また、学習形態を工夫し、全体交流やパートごとに工夫する活動を多く取り入れる。ICTを活用しながら、自分たちで意欲的に作り上げる活動を取り入れる。 ・鑑賞では、合唱、合奏を含めた様々な種類の楽曲を取り入れ、音楽表現の多様性にふれ、聴く喜びをさらに深められるようにする。

図画工作科

図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<取り組みにおける成果と課題>

- ・造形活動に意欲的に取り組むことのできる児童が増えてきた。
- ・思いを表現するための造形的な経験や体験が乏しく、指の巧緻性の低い児童が多い。用具を扱う際には基本的な使い方や技術を定着させるように指導する必要がある。
- ・表現活動中に鑑賞活動を設定することで友達や自分のよさに気づき、肯定的なコミュニケーションが生まれたり、自分の表現に生かしたりする姿が見られた。

図画工作科における学習状況の分析

領域・内容結果の分析	A表現(1)「造形遊び」 主となる活動が友達と関わりながら行う表現である。今年度も基礎的な活動から育てていく必要がある。 A表現(2)「自分の思いを絵や立体で表現する」 絵や立体で表す活動では、身近なものや、自然材、人工材などのさまざまな材料や素材を使った題材、テーマをもとに想像を広げながら表す題材を各学年に設定する必要がある。児童はものの質感と深く関わる体験が不足している。絵、立体共に十分に材料に触れながら、表したいことや思い付いたことを表す題材を設定する必要があると感じた。 B鑑賞 友達の作品や芸術作品などからそのよさや美しさを感じ取ることはできているが、表現の感じや特徴をとらえ、根拠とする力は弱い。どのように記述したらよいかを確認したり、例示したりして、形や色の感じや特徴を根拠として記述できるように指導したい。日常的に美術作品に興味をもって見たり、作品を大切にしようとしたりする態度も身に付けていく必要がある。
観点別結果の分析	○知識及び技能 多くの児童は表現したいことに対して、材料や用具を工夫して使うことができる。しかし、手や体全体の感覚をうまく働かせることができず、自分の思い通りに表現できない児童や、材料や用具を適切に使えない児童もいる。 ○思考力、判断力、表現力等 想像力を働かせ、自分なりに工夫しながら表し方を考えたり構想したりしている。しかし、中には自分の表したいことをなかなか見付けられず、手が止まってしまう児童もいる。自分のイメージをもちやすいように導入でイメージを耕すように工夫したり、イメージを共有したりできるようにする。また、材料の感じや特徴から柔軟にイメージを広げて表現に結び付けていく力をさらに身に付けさせたい。鑑賞では、自他の作品のよさに気づき認め合うことができている児童が多いが、形や色の特徴を根拠として、感じたことや思ったことを自分の言葉で発言したり書いたりすることに課題がある児童もいる。 ○学びに向かう力、人間性等 児童が興味をもって活動に取り組めるように、題材を工夫したり様々な材料を扱ったりすることで、意欲的に楽しんで取り組む姿が見られた。しかし、最後まで粘り強く、自分らしい工夫をして作品を完成させることに意欲や関心が続かない児童もいる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

○知識・技能

絵の具セットや木工道具、彫刻刀など、用具を扱う際はスモールステップで確認しながら取り組み、用具の基本的な扱い方を身に付けさせる。また、適切に活動ができるようにものの配置の仕方など、場所を整えて活動させ、適切で安全に活動できるようにする。

○思考力・表現力・判断力

テーマや材料からどんなことができるかイメージを広げて友達と共有するような場面を設けるなど、導入を工夫する。

○主体的に学習に取り組む態度

つくり出す喜びを感じたり、体の諸感覚を意識して働かせたりするような題材を取り入れる。

図画工作科の授業改善策

- ・進んで表現や鑑賞をすることを楽しみ、つくりだす喜びを味わうことができるようになるために

低学年	・個々の表現のよさに寄り添い、自信をもって活動できるようにする。制作時に相互鑑賞の機会を設けて、自分の表現に生かすようにする。
中学年	・個々の思いを伸び伸び表現させるために、題材に幅をもたせる。材料や道具を十分に用意する。また、自分で描画材や材料を選択できる場面を設ける。
高学年	・自分を見つめ、心が開くような題材(材料)を多く取り入れ、表現する面白さや喜びを味わえるようにする。表現活動では、つくり上げる喜びを感じられるような題材を取り上げる。

- ・材料や感じたことを基に想像力を働かせ、表し方やつくり方、美しさなどを考えることができるように

低学年	・題材や材料のことについてクラス全体で話し合い、イメージをもって活動に取り組めるようにする。言葉で表したり、楽しさを想起させたりしてから表現活動に入り、児童の思いを尊重しながら制作を進められるようにする。
中学年	・造形活動では色や形、イメージに着目させ、表現活動を広げるようにする。一人一人の感じ方やよさを認める。発想を広げる段階で、材料の質感にふれ、どんなことができるのか体験できる時間を設ける。
高学年	・児童が自分の表したいことに合わせて、使いたい材料や必要な用具の特徴を生かせるように授業の準備をする。そして、前学年までの経験を生かしながら、さらに知識、技能を深め、工夫して表せるように環境を整える。

- ・造形の基本的な技能を伸ばし、表したい意図に応じ、体の感覚や技能を生かして表現できるように

低学年	・道具の扱い方、安全への指導を徹底しながら、紙や身近材料を中心に扱い、手や指先を使う経験を多くさせる。
中学年	・厚紙や段ボール、板材などの材料を中心に、カッター、金槌、のこぎり、彫刻刀、ボンド、木工接着剤などを扱う機会を多く取り入れ、その特性に慣れる。
高学年	・低、中学年で経験した用具や木工道具を使い、表現に適した方法や効果を考えられる題材を設定する。道具の適切な使い方を身に付けるため時間をかけて取り組む。複数の表現要素を取り入れ、表現方法に幅をもたせる。

- ・造形作品のよさや美しさなどに気付き、感じ取ってみることができるように

低学年	・児童の作品のよさや工夫を紹介し、いろいろな表し方に気付けるようにする。友達と作品を見せ合う時間を設ける。
中学年	・友達同士で作品を見合う機会を設ける。鑑賞したときには、言葉でそのよさを話し合ったり、発表したりする機会を設ける。
高学年	・友達の作品や芸術作品に関わる様々な鑑賞ができるようにし、作品のよさを言語で表す機会を設ける。作品をタブレット端末で撮影し、相互鑑賞の授業を行う。

家庭科

家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<取り組みにおける成果と課題>

- ・実践的・体験的な学習を生かし、家庭生活に主体的に関わろうとする関心が高まっている。
- ・児童同士で教え合うことで、基礎的な技能を習得することができた。
- ・学習の中で習得した知識や技能を、日常生活の場に十分生かしているとは言えない。
- ・自ら問題を見出して課題を設定し、解決する力については、授業の改善が必要である。

家庭科における学習状況の分析

領域・内容結果の分析	A 家族・家庭生活 ・自分が家族に支えられていることに気付き、感謝の気持ちをもてる児童が増えてきた。しかし、家族と触れ合ったり、家庭の仕事を実践したりする時間が十分に取れない児童が多いのが現状である。 B 衣食住の生活 ・栄養士から日常の食事の大切さや栄養バランスについて学ぶ場が設けられており、栄養についての知識がある。 ・調理や裁縫については、これまでの経験による個人差が大きい。平易なものから段階的に題材を発展させながら、基本的な技能の定着を図っていきたい。 C 消費生活・環境 環境に配慮した生活の工夫については、他教科での学習や家庭生活、情報メディア等から得た知識をもとに実践している児童が多い。また、物や金銭の大切さ、計画的な使い方を学ぶことで、これからの生活に役立てていこうとする意識が育ってきた。
観点別結果の分析	○知識・技能 ・家族がしていることを見る機会はあるけれども、自らが日常的に家庭の仕事に取り組む経験が少なく、定着に結び付いていないことがある。 ・調理の技能については、家庭での経験による個人差が大きい。裁縫については、知識は身に付いても、技能面で苦手意識をもっている児童が多い。 ○思考・判断・表現 ・家庭生活を見直し、生活の課題を解決しようとする姿勢が見られる。一方で、家族と触れ合ったり、協力して家庭の仕事をしたりする時間を十分に確保することが難しく、経験の積み重ねから工夫につなげることが十分とは言えない。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・調理実習では、グループで協力し、楽しみながら調理や片付けに取り組んでいる。他の学習においても個人差はあるが多くの児童が課題に対して自分の考えをもち、解決に向けて意欲的に取り組んでいる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

○知識・技能

授業や家庭で繰り返し実践させることで、確実な定着を図る。

○思考・判断・表現

自分の生活を見つめ直したり、振り返ったりする活動を通して、家族・地域の人などに関わる経験の大切さが分かり増やそうとする意欲・態度を育てる。

○主体的に学習に取り組む態度

実践的・体験的な活動を今後も多く取り入れ、日常生活と授業内容との関連を図り、実生活で実践する意欲を育てるようにする。

家庭科の授業改善策

・知識・技能

知識や技能は、実生活で経験を繰り返し積み重ねることで身に付いていくものである。また、知識を基に実践する中で、状況に応じて様々な対応が求められる。従って、体験学習を多く取り入れるとともに、課題を解決するためにはどうしたらよいかを考えたり、実際にやってみたらどうだったかを振り返ったりする機会を設ける。

授業で習得した技能は、繰り返し実践することで確実なものとなる。そのためには、段階を追って丁寧に指導し、それを反復したり、発展させたりするような家庭学習で、経験を積み重ねられるようにする。また、児童同士で教え合えるようにグループを構成し、基礎的技能の習得に取り組めるようにする。

・思考・判断・表現

自分の生活を見つめ直し、課題を見付け、解決しようと考えることが生活を工夫する力につながる。従って、現状を踏まえた上で、よりよい方法はないか、工夫の仕方はないかといったことを常に意識して活動に取り組むようにさせる。

家庭科は、他教科の学習とのつながりが深い。算数では、長さや測り方・正しい線の引き方・かさの目安・重さ、社会や総合では、環境問題・ごみの分別・5Rの取り組み・食物の産地、理科では、沸騰・温度計や量りの見方・使い方などに関連している。様々な教科との関連に気付くことで、考えを広げられるようにする。

・主体的に学習に取り組む態度

自分の実践が周りに受け入れられ、評価されることで積極的に取り組むことができるようになる。家庭での実践の場を設けるだけでなく、実践したことを友達と交流する機会をもつことで、よりよい生活を工夫する力を養う。

調理や製作の活動においては、実習を通して作り上げる喜び、作った作品を使う喜び、家族に喜んでもらう満足感、できるようになったという達成感をもたせ、更なる意欲につながるようにする。

生活科

生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

＜取り組みにおける成果と課題＞ ・体験的な活動を多く取り入れ、実際に観察したり体験したりしたことを発表したり、まとめたりすることにより、目的意識をもって活動することができた。 ・郊外に出たり、様々な人との関わりをもたせたりする多様な活動を再開し、関心・意欲を高めることにつながった。 ・花や野菜、様々な生き物の世話を通して、学習に対する興味の持続や責任をもって最後までやり遂げようとするものの大切さを知ることができた。	
--	--

生活科における学習状況の分析

観 点 別 結 果 の 分 析	○知識及び技能の基礎
	自分の朝顔やミニトマトを育てることで、発芽や実になる様子を観察して水をやらないと育たないこと、花の後に実になることを知ることができた。また、おもちゃ作りでは、動き方を工夫したり、よりよくする方法を考えたりしていた。材料の特性をうまく生かしたおもちゃ作りを行う姿が見られた。
	○思考力、判断力、表現力の基礎
	わかったことや気付いたことを絵や文で表現することを継続的行ったことで、自分なりの気付きをまとめられるようになってきた。枚数や大きさの表現等、国語での学びも生かしている。また、タブレットで写真を撮り、拡大して観察記録に書くことで、細かなところまで観察できる子も増えた。しかし、語彙が少なく、観察した結果を適切な言葉で表現することが難しいことも見られた。
	○学びに向かう力、人間性等
	学校探検を1，2年生で行った。2年生は、1年生に対して上級生という意識で優しく接しようという気持ちを持ち、各教室を丁寧に説明した。1年生は、次年度の自分の姿をイメージし、学習に対する意欲がもてた。できる限り交流をしたり、自分の植物を育てたりすることで、人やものに関わる喜びをもって学べた。

実態に基づいた授業改善のポイント

○知識及び技能の基礎	
・自分で調べる、また人に聞くなど、自分で課題を解決することができるスキルを身に付ける。	
・自分から知ろうとする意欲や、友達の発見を聞いて取り入れることができるようにする。	
→学級内のペア活動・グループ活動を積極的に取り入れる。1・2学年の交流活動を年間計画に位置付ける。未就学児、校内で働いている人や地域の方と関わる活動を意図的に取り入れて、関わりを計画していく。	
○思考力、判断力、表現力等の基礎	
・他学年の交流や、地域の方との交流を取り入れ、自分の思いや考えを表現する場を設ける。	
→発表など、伝えたり教えたりする相手を、幼稚園時や1年生時にすることで、相手を意識して分かりやすく伝えようとする活動を、工夫していく。	
・自分の思いや考えをもつこと、表現することが苦手な児童に対して、思考や表現を広げることができるよう支援する。	
→選択型で思考を促したり、見たり調べたりする観点や表現の型を示したり、友達のよい表現を知らせたりする。	

○学びに向かう力、人間性等

- ・身近な人々や自然に関心に向け、自分から働きかけようとする姿勢を身に付ける。
→学校や地域の人々に自分でインタビューするなど、様々な人と関わりをもつ活動をする。
- ・生き物や植物の世話をすることで、責任をもって関わるができるようにする。
→発見したことや気付いたことを友達と交流することで、よりよく育てようとする意欲をもつ。

○知識及び技能の基礎

- 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりなどに気付くために
- ・児童の思いが表れやすいワークシートを作成することで気付きの幅が広がるようにし、見取りの材料とする。言語だけでなく、絵のみの表現でも可とするような幅をもたせる。
- ・活動を振り返り、比べたり結び付けたりして、言葉や文で表現し、気付きが広がるようにする。
- ・発言やカードから、教師が気付きのよさを認め称賛していく。
- ・価値のある話し合いになるように教師が適切にリードし、気付きを基にした思考が深まる助言をする。
- ・他教科との関連を図り、実践できるような取り組みをする。
- ・生活科見学などでは、見付けたことを新聞やレポートにまとめ、地域への理解を深める活動を設定し、3年生の社会科での学習に生かせるようにする。
- ・動植物の観察や世話をすることで、身近な動植物や自然に対しての興味を高める。1、2年生で培った動植物への関り方や観察の視点を3年生の理科で活用できるようにする。

○思考力、判断力、表現力等の基礎

- 自分自身や自分の生活について考え、表現するために
- ・活動の目的を明確にしていくことで、常にその目的に立ち返って考えを深めることができるようにしていく。
- ・繰り返し活動する場を設定することで、経験を生かして自分の考えをより広げたり、深めたりできるようにしていく。
- ・自分の活動や気付きを表現したくなったり、友達の活動や気付きについて知りたくなったりするように、活動の形態や学習過程を工夫する。
- ・話し合うとき、共有できる部分（共有体験）を設定し、友達のよい点を自分の学習に取り入れられるようにする。
- ・隣の人→グループ→クラスのように、段階を踏んで伝え合いの経験を積み、友達のよい表現を知らせたりすることで、表現（思考）を支援し、考えていることを引き出したり整理したりできるようにする。

○学びに向かう力、人間性等

- 意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする態度を養うために
- ・体験的な活動、人との関わり合いのある活動、多様な場での活動を多く取り入れることにより、関心・意欲を高める。
- ・「～したい」という思いや願いを一人一人がもてるような導入の工夫をし、学習段階に応じた目的意識をもたせることで意欲の持続を図る。

外国語活動・外国語科

外国語活動・外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ＜取り組みにおける成果と課題＞
- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気づき、知識を理解する。
 - ・中学年の教材、高学年の教科書とそれぞれのデジタル教材、外国語講師を活用して、積極的に発音をしたり、外国の学校や子供たちを紹介する動画を視聴して日本や日本語との違いに気付いたりすることができた。しかし、過去の単元で学習した様々な英語のフレーズ、表現を覚えて使うことについては課題がある。
 - 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。
 - ・中学年で外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませたことを踏まえ、高学年では「読むこと」、「書くこと」を加えて中学年の学習を振り返りながら指導を行うことができた。
 - ・「読むこと」については、教科書やフラッシュカードを活用し、単元内で同じフレーズを繰り返し発音することで、英単語や簡単な英文を読むことができるようになったが、初めての単語や英文を見て読み方を予想して読む力については課題がある。
 - ・「書くこと」については、手本や単語集を見ながら書くことがやっとなのである児童がまだ多い。ローマ字を習得していたり、普段から英語に親しみをもって書いたりしているかそうでないかによって英語を書く力の差が大きい。

外国語科（英語）における調査結果の分析 ※大田区学習効果測定英語（B）の結果分析

(1) 達成率（△▽は目標値との比較）

		令和6年度結果	令和5年度結果
第5学年	知識・技能		
	思考・判断・表現		
	主体的に学習に取り組む態度		
第6学年	知識・技能	78.4△	70.5▽
	思考・判断・表現	73.1△	69.9▽
	主体的に学習に取り組む態度	73.6△	66.5▽

外国語活動・外国語科における学習状況の分析

学習状況の分析	○知識及び技能
	・学習効果測定では、知識・技能、思考・判断・表現において目標値よりポイント上回ったが、主体的に学習に取り組む態度においては、目標値を下回った。
	・5・6年生の単元評価テストでは正答率9割以上の児童がほとんどである。
	・学習効果測定（6年生）では、ほとんどの問題が全国正答率より下回っている。「聞くこと」については、「G」の発音の聞き取り、CD音声の対話から具体的な情報を聞き取ったり、目的や場面、状況などを推測したりすることが全国正答率から約7ポイント下回っていた。
	○思考力・判断力・表現力等
	・どの学年も学習した英単語やフレーズを使ってゲームをしたり、自分のことを英語で発表したり楽しんで活動することができている。
	・5・6年生の単元評価テストでは、知識・技能よりは少し落ちるが、正答率9割以上の児童がほとんどである。
	・5・6年生の単元評価テストでも正答率9割以上の児童がほとんどである。
	・学習効果測定（6年生）では、「書くこと」について、ものの場所を説明する場面で適切な位置を表す語を書き写す、いくつかの英単語から自分に当てはまるものを選ぶ、例文を参考にしながら簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことが全国正答率から約10ポイント程度下回っていた。
	○主体的に学習に取り組む態度
	・外国語講師との授業では、どの学年も積極的にコミュニケーションを取ったり、主体的に学習に取り組んだりすることができている。
	・高学年の「書くこと」については、苦手意識をもっている児童が一定数いる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

○知識及び技能

- ・実際に英語を用いた言語活動を通して、体験的に身に付けることができるように指導する。
- ・聞き取りの間違いをしやすいアルファベットや単語の発音はALTの口をよく見て練習したり、聞き取ったりする練習を積極的に行う。
- ・各学年で扱う基本的な表現は繰り返し発音を練習し、定着させていく。

○思考力・判断力・表現力等

- ・あるテーマを基に、指導者のまとめた話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりするスモールトークも充実させていく。そうして、既習表現を想起し、対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。
- ・児童にとって身近で簡単な事柄について、自分の考えが伝わるように工夫して質問をしたり、質問に答えたりする活動を充実させていく。
- ・高学年の「書くこと」については、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動を積極的に取り入れていく。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・単元の学習に入る前のスモールトークを充実させることで、英語でどのように言うのか、自分に関することをどのように伝えたら良いのかという意欲をもたせていく。
- ・「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」のどの言語活動でも、児童にとって身近で簡単な事柄から学習していくようにする。

外国語活動・外国語科の授業改善策

・日本語と外国語との違い等に気づき、外国語の基本的な表現に慣れ親しむために

低学年	・簡単な挨拶や身の回りの物を表す英語を知り、英語の音声やリズムに触れる。 ・ALTの発音を真似て、たくさん話す場を設定する。
中学年	・3年生でローマ字の学習をするので、少しずつアルファベットを読んだり書いたりする学習を取り入れる。 ・英単語のフラッシュカードに英単語を書いて提示し、アルファベットに触れさせる機会を多く設ける。 ・文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字かが分かるように確認をして慣れさせていく。
高学年	・活字体で書かれた英語の文字を識別し、その読み方を発音することができるように練習をして慣れさせていく。 ・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように繰り返し練習をする。 ・自分のことや身近で簡単な事柄について、基本的な表現を聞き取ったり、短い話の概要を捉えたりできるようにする。

・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちを伝え合う力を養うために

低学年	・簡単な挨拶や質問の英語のフレーズを練習し、それに対する返しをいくつか練習し、友達に質問したり答えを返したりする。
中学年	・基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりできるようにする。 ・自分のことや身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりする。
高学年	・基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それに応じたりすることができるように様々な表現に触れて発音練習をする。 ・自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるよう友達同士、児童とALTでのやり取りを繰り返し練習する。

・言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図るために

低学年	・英語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。
中学年	・教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 ・児童の日常生活に関して身近で簡単な事柄を取り扱うようにする。 ・身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す練習をする。
高学年	・教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 ・児童の日常生活に関して身近で簡単な事柄を取り扱うようにする。 ・これまで学習した英語の表現を繰り返し練習し、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や表現を用いて話すことができるようにする。 ・大文字、小文字を活字体で書くことができるように繰り返し練習をする。 ・語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。